

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 22日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|-----------------------------------|-------|------------|
| 事業所番号 | 0170502181 | | |
| 法人名 | 株式会社 グローバルケアマネジメント | | |
| 事業所名 | ポテトタウン南の沢 | | |
| 所在地 | 札幌市南区南沢1822-63 電話 011-572-9661 | | |
| 評価機関名 | 株式会社 社会教育総合研究所 | | |
| 所在地 | 札幌市中央区南3条東2丁目1 | | |
| 訪問調査日 | 平成21年3月16日 | 評価確定日 | 平成21年3月24日 |

【情報提供票より】 (平成21年3月10日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|----------------|--------|------------------------|
| 開設年月日 | 昭和(平成)15年10月1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 8 人 | 常勤 | 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算7.2人 |

(2) 建物概要

| | |
|------|---------------|
| 建物構造 | 木造 造り |
| | 2階建ての 1.2 階部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | | |
|---------------------|-----------------|----------------|--------------------------------------|---|
| 家賃(平均月額) | 29,000~30,000 円 | その他の経費(月額) | 光熱水費: 15,000 円 暖房費(11-3月):8,000 円 | |
| 敷 金 | 有(1ヶ月分) | | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 | |
| 食材料費 | 朝食 | 円 | 昼食 | 円 |
| | 夕食 | 円 | おやつ | 円 |
| | または1日当たり 900 円 | | | |

(4) 利用者の概要 (3月 10日現在)

| | | | | | |
|-------|------------|-------|-------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 | 3 名 | 女性 | 6 名 |
| 要介護 1 | 4 名 | 要介護 2 | 4 名 | | |
| 要介護 3 | 1 名 | 要介護 4 | 名 | | |
| 要介護 5 | 名 | | 要支援 2 | 名 | |
| 年齢 | 平均 81.66 歳 | 最低 | 79 歳 | 最高 | 93 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------------|
| 協力医療機関名 | 五輪橋内科病院・小笠原クリニック・金山歯科 |
|---------|-----------------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

| |
|---|
| 「ポテトタウン南の沢」は、南区の自然豊かな環境に恵まれた場所に位置している。代表者は、長年障害者施設を運営する中、地域の高齢者の役に立ちたいという思いから当事業所を開設している。建物は大学生の下宿アパートを改築したもので、共用空間を広く取り、大きな窓からは四季折々の季節を楽しめる落ち着いた造りになっている。管理者は家族の思いを汲み取りながら、病気になったら側に寄り添って看病するなど家族と同じ気持ちで利用者に接していきたいと考え、職員と共に家庭的で温かなケアに日々取り組んでいる。利用者は、カルタや懐かしい歌を合唱したり、編み物や読書をするなど、一人ひとり楽しみを持ちながら明るい笑顔で過ごしている。 |
|---|

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題については、ほぼ取り組みが行われているが、地域住民に事業所の行事に参加して貰う、職員の研修機会の確保、同業者との交流、重度化や終末期に向けた方針の共有については、現在も取り組みの継続中である。 |
| | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 月例会で自己評価の説明をし、前回の評価を参考にしながら、職員全員が1冊の自己評価表に記入し、管理者がまとめた。新しい職員は、よく分からない部分も多いと感じているが、多くの職員は、項目毎に記入する事により介護の内容を具体的に理解する機会になったと感じている。 |
| 重点項目② | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、町内会の行事の確認、利用者の状況報告や外部評価の結果報告、災害援助などを議題に上げ、2ヶ月毎に開催している。参加者から、利用者に適している外出場所を教える事もあり、参考になる事が多いと感じている。 |
| | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 「ポテトタウンからのお便り」というホーム便りを作成して、事業所の様子や個別の様子を毎月家族に知らせている。半年に1回、職員の言葉使いや、利用者の健康状態の把握の仕方、介護計画の説明の仕方についてなど、10項目ほどのアンケートを行い、家族の意見や思いを汲み取る機会としている。アンケートを回収したら、内容について話し合う機会を設け、職員の対応等を統一している。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入し、餅つき大会、運動会、盆踊りなどにはほぼ全員の利用者が参加すると共に、クリスマス会、古希のお祝いなどにも出席している。中学校で開催される吹奏楽の演奏会に出かけたり、近くの福祉会館での高齢者の交流会にも参加する機会を増やして行くなど地域との交流を行っている。回覧板などを利用して、今後は事業所の行事に地域住民を招いて行きたいと考えている。 |

2. 評価結果 (詳細)

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------|------|---|--|----------------------|---|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 「穏やかで人間らしい暮らし」「自分らしい誇りが持てる暮らし」という従来の理念に、地域密着型サービスの意義を踏まえ「住み慣れた地域での安心した暮らし」という理念を加え、事業所独自の理念を作りあげている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念は、事務所、居間の壁に掲示すると共に、職員のネームプレートの裏に記載している。理念は、毎月の月例会で職員全員で唱和している。職員が穏やかな言葉使いをする事で、利用者も穏やかな暮らしができる事を意識しながら日々、ケアに取り組んでいる。 | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 町内会に加入し、餅つき大会、運動会、盆踊りなどにはほぼ全員の利用者が参加すると共に、クリスマス会、古希のお祝いなどにも出席している。中学校で開催される吹奏楽の演奏会に出かけたり、近くの福祉会館での高齢者の交流会にも参加する機会を増やして行くなど地域との交流を行っている。 | ○ | 地域の回覧板などを利用して、今後は事業所の行事に地域住民を招いて行きたい意向なので、その取り組みを期待したい。 |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 今回の自己評価は、月例会で自己評価の説明をして、前回の評価を参考に、職員全員に1冊の自己評価表に記入して貰い管理者がまとめている。新しい職員は、よく分からない部分も多いと感じているが、多くの職員は、項目毎に記入する事により介護の内容を具体的に理解する機会になったと感じている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|---|----------------------|--|
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、町内会の行事の確認、利用者の状況報告や外部評価の結果報告、災害援助などを議題に上げて2ヶ月毎に開催している。参加者から、利用者に適している外出場所を教えることもあり、参考になる事も多いと感じている。 | ○ | 利用者の認知度による症状など、より理解を深めるための勉強会を会議の議題に載せ、家族の参加を呼びかける等の取り組みに期待したい。 |
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 管理者は、区役所を訪問して介護認定の更新や施設の空き状況などの問い合わせを行うと共に、生活保護の相談や利用者の飲酒に対する対応などについて相談するなど、区の担当者と連携を取りサービスの質の向上に取り組んでいる。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 「ポテトタウンからのお便り」というホーム便りを作成して、事業所の様子や個別の様子を毎月家族に知らせている。利用者が不穏になるなどの精神的変化や体調変化が起きたときは随時電話で家族に連絡をしている。金銭出納関係の報告は、家族の状況により郵送したり、来訪時に直接報告したりしている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 半年に1回職員の言葉使いや、利用者の健康状態の把握の仕方、介護計画の説明の仕方についてなど、10項目ほどのアンケートを行い、家族の意見や思いを汲み取る機会を設けている。アンケートの回収時は、内容について話し合う機会を設けて、職員の対応などを統一している。 | ○ | ホーム便りを利用して、新入職員の紹介や離職する職員の報告をするよう期待したい。家族からの意見や要望は、ノートに記録して、全職員で共有していくよう期待したい。 |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動や離職の際は、利用者に挨拶をし、納得が得られるようにしてダメージを防ぐ配慮をしている。落ち込んでしまう利用者もいるので、側に寄り添い、利用者の話を聞いて一緒に悲しむなど、気持ちを共有するよう配慮している。 | | |


| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|------|--|--|----------------------|---|
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 実践者研修の計画はあるが、その他の外部研修に関しては、研修の案内が来た時点で対応している。管理者は、月例会で認知症についての指導を行い、資料を配付しているが、それらの内容に基づく勉強会などは行われていない。 | ○ | 資料を利用して研修を行うなど、内部研修の充実を図るよう期待したい。年間の外部研修情報を事前に得て、計画的に職員が参加できるような取り組みを期待したい。 |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の事業所間で、バス旅行や餅つき大会、クリスマス会などの行事を通して職員の交流を行っている。管理者の研修で他の事業所を見学したり、他の事業所に勤務している人が個人的に見学に来る事はあるが、一般職員が他の事業所を見学に行くなどの交流は行われていない。 | ○ | 今後は、一般職員レベルでの相互訪問などを行って行きたい意向なので、その実現を期待したい。 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 家族の来訪後に本人にも来訪して貰い、他の利用者と共に時間を過ごして貰うようにしている。入院中の場合も、看護師やケースワーカーと共に来訪する事もある。居室が空いている時は宿泊体験をして貰い、本人にホームの雰囲気を体験して貰うと共に、職員は本人の状態を把握する機会としている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 掃除機がけや畑仕事を手伝って貰っている。花の名前を教えて貰ったり、人との関わり方や話し方など人間関係について利用者から学ぶ事も多い。職員が帰宅する時に、「寒いから気を付けてね。お疲れ様」と気遣いをして貰う事で、職員は精神的にも支えられていると感じている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------|------|---|--|----------------------|--|
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 毛糸を買ってきて貰い編み物を楽しんでいる利用者や、読書が好きな利用者は、一緒に書店や古本屋に出かけたりしている。寝る事が多い利用者には、生活歴の情報から、職員が草むしりに誘ったり散歩やトランプ、カルタなどのゲームに誘うなどの工夫をしている。 | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 家族、医療関係者からの情報を基に、介護計画作成者はセンター方式でアセスメントを実施し、新規の計画では基本的な生活の対応を重点的に入れて暫定計画書を作成している。計画書を家族に送付し、来訪時に同意を得ているが、来られない家族には郵送で確認印をもらっている。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は3ヶ月ごとに見直し、新規の場合は1～3ヶ月の間に、担当職員を中心にサービス担当者会議で利用者の状態を確認している。毎月「月例会」で担当職員が把握した変化などを話し合い、疑問点などは自宅での習慣を家族に聞き、本人とも話し合い、その状態の変化に沿っての対応を申し送りして共有しケアを行っている。 | ○ | 毎月のモニタリングで個人の状態変化を詳細に確認しているので、その介護内容を計画書に加えたり、認知度の変化や退院後など、大幅に介護内容が変わる場合は新たに作るなど、現状に即した計画書の作成に期待したい。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 家族の事情に応じて受診の送迎を行い、主治医に相談しながら早めの対応で入院回避にも努めている。また行きつけの美容室や買い物には職員の送迎で個人の満足度を高めるような支援に努めている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医の他にかかりつけ医の往診など、受診への負担を軽減している。家族の事情から事業所の受診支援を行う事が多くなり、遠方であったり、診療科目も増えているので、協力医や近くの病院への変更、同じ診療科目で別の病院に受診している場合は一つの病院へ変更が可能かなどを、家族と相談している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入院治療が必要になり一定の期間が過ぎた場合には、退居になることも入居の際に口頭で説明をしている。医療連携体制がないので看取り介護は難しいと考えているが、今は元気な利用者が多いので、重度化や終末期に向けての方針を決めかねている。 | ○ | 重度化に向けた当事業所としての方針を文章化し、現在入居中の家族と方針を話し合い、また、新しく入居する際には早い段階で確認するなどの取り組みに期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 人生の先輩として利用者に対する対応を「月例会」で話し合っている。管理者は職員の馴れ馴れしい話し方、名前の呼び方、命令的に聞こえる言葉遣いなどには注意を促し、尊敬をもった対応を指導している。個人情報などの書類は事務所に保管している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 10時の水分補給、15時のおやつ、食事などの時間を決めてはいるが、体調によっては時間をずらしたり、居室で食べることもあり、本人の意思を確認しながら対応している。趣味など、それぞれに過ごしており、皆でカルタや懐かしい歌を合唱するなどの楽しみに職員は側面から支援している。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|-------------------------------|------|---|---|----------------------|--|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 職員2人で話し合い、利用者の好みも入れ交代で献立を作っている。食事準備に利用者の参加は不安定な動作もあり、今は野菜の皮むきや下膳などに限られている。食事は事情があり利用者の後に職員だけで摂っていたが、以前のように一緒に食べることを考えている。 | ○ | 暮らしの中で、食事は大切な場面なので、職員も同じ食卓を囲み楽しい時間を共有することに期待したい。 |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は、水、木、土、日曜日の週4回実施しており、週2回以上入浴できるように支援している。入浴日は大体決まっているが、必要、希望に応じては変更をしている。夏季は、いつでもシャワー浴ができるように支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 出来る利用者は掃除機をかける、自動式で洗濯をする、自室に洗濯物を干す、利用者間で相談をし合うなどの役割で過ごしている。編み物を楽しむ、週刊誌、マンガを読み、自動販売機でジュースを買い、玄関前の花を見るなど、それぞれの気晴らしもある。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 夏季には天候を見て、毎日のように近くの公園、神社、個人商店などに出かけている。利用者の希望や状態に応じて散歩の距離を決めたり、車で行くなど、出来るだけ午前中の散歩を行っている。冬季の外出機会は少ないが通院の帰りに買い物を楽しんだりしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 8時～19時まで施錠していない。自動販売機まで買い物に行ったり、個人商店に行くなど一人で外出する利用者もいるが、日頃の行動パターンを把握して出入りを確認しながら見守っている。外に出て行く利用者の状況を見て、必要な時は職員も同行し安全に努めている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------|------|---|--|----------------------|---|
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | マニュアルに沿った自主訓練と消防署の協力のもと年に2回、火災避難訓練を実施している。昨年は利用者も参加し夜間を想定した避難訓練を行い、一人ひとりの課題点を話し合い、次回の取り組みにつなげている。 | ○ | 近隣には遅くまで開いている店や福祉会館もある環境なので、災害時や利用者を見かけた時の連絡など、近隣住民から協力を得られるような体制作りを期待したい。 |
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養バランスに配慮した献立で、食事を提供している。全員の食事量は残食内容も記録し把握しているが、水分は十分に摂れているので全員の記録はしていない。個人で必要な場合は集中的に記録し、1200～1500ccまで摂れるようになれば記録を中止している。 | ○ | 大まかなカロリー計算はされているが、管理栄養士の専門的な目でチェックしてもらうことも期待したい。また、普段の健康を把握するためにも、全員の一日の水分量も記録し全員で把握できるような工夫に期待したい。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 下宿を改造した共用空間は広く、台所の配置を中心に居間と食堂をコーナーで分け、大きな窓から四季折々の季節感が楽しめる。談話が楽しめるような落ち着いた雰囲気の間である。壁には職員と利用者で写した写真や1年間の行事、誕生日を載せた手作りの作品、利用者が折った千羽鶴などが程よく飾ってある。2階への階段は段差が低いので安全な移動ができ、リハビリにもなっている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には利用者の馴染みの家具やイスなどが持ち込まれている。ホームの「観葉植物」を居室で見事に育て楽しむなど、それぞれの工夫で居心地よい居室になっている。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。